

活用事例	2 昼休みに地震が発生した場合の避難訓練 【特色】ブラインド方式の避難訓練、避難場所と経路を児童が判断		
学校名	山陽小野田市立高泊小学校		
日時	平成25年9月13日(金) 13:10~13:30		
場所	運動場	参加者	児童・教職員・防災アドバイザー

1 訓練のねらい

〈教職員〉

- ・非常の災害に際し、安全かつ速やかに児童の安全を確保することができる。
- ・校内における異常時に対し、緊急対処の方法を理解する。
- ・自己の判断で、児童の安全を速やかに確保することができる。
- ・校内における異常時に対し、的確な判断のもと通報(119番)ができる。

〈児童〉

- ・非常の災害に際し、「おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない」で対処することができる。
- ・災害に対して、「自分の命は自分で守る」ことを意識させ、身の安全を守り、落ち着いて放送や先生の指示に従って避難することができる。

2 訓練の概要

(1) 事前指導

〈児童〉

自分の命は、自分で守ることを基本に危険予測学習(KYT)のワークシート(災害安全分野)を活用し、具体的に様々な場面(場所・時間)を想定した避難(避難の仕方・避難場所等)について学活の時間等で学習しておく。
 ※ 本校は10m以上の高台にあるため、避難場所は、基本運動場に設定している。

〈教職員〉

- ア 授業中・授業以外(昼休み等)についての教職員の役割について、事前にしっかり共通理解しておく。
- イ 防災アドバイザーをお呼びし、訓練に至るまでの指導計画から実際の避難の様子を見ていただき、事後指導していただく。
- ※ 予告しないで行うため、事前の児童への指導を徹底しておく。

(2) 訓練の実際

①訓練開始の合図(地震の擬音)

↓
チャイム ♪♪♪

避難訓練。避難訓練。ただ今緊急地震速報が流れました。児童のみなさんは揺れが収まるまで机の下に隠れたり、しゃがんだりして身の安全を守る行動をとってください。(2回繰り返す)

- 運動場で遊んでいた児童は、すぐにしゃがんだ。
- 教室にいた児童は机の下に隠れた。
- 廊下にいた児童は、周りに落下物がないところでしゃがんだ。

②避難開始の放送

揺れが収まりました。児童のみなさんは避難してください。

※ 避難場所については、運動場と固定しているのので、あえて避難場所は言わない方がよい(変えたときだけ放送)との指導(防災アドバイザーから)を受け、上記のような短い言葉になった。

③運動場へ避難開始

昼休みなので、児童は、それぞれの場所から避難経路を通して、避難を開始した。避難の際の「お・は・し・も」の約束はしっかり守っていた。

教職員も様々な場所にいたが、あらかじめ決めていた役割分担に従って行動した。養護教諭と校長は、避難場所である運動場に行き、校長は、避難してくる児童の誘導を、養護教諭は応急救護所を開設した。

④運動場へ避難完了

避難完了後、各担当が校長に人員の報告を行った。

⑤防災アドバイザーによる指導講評

防災アドバイザーから、児童に訓練の評価及び何かあったときにどうしたらよいかを常に考えておくことの大切さ（緊急時に対する心構え）について指導していただいた。

また、訓練終了後、校長室で校長・教頭に対して、本日の避難訓練及び日頃の防災意識向上（児童・教職員）について、様々な視点から指導していただいた。

3 訓練の成果と課題

【成果】

- ◇ 昨年度よりブラインド方式で行っているため、児童が自ら考えて行動するようになってきている。
- ◇ 放送をしっかりと聴く（黙って聞く）ことができるようになってきている。
- ◇ 日常の指導の大切さを痛感したので、今後、日常生活の中で子どもたちに考えさせる機会を作っていくようにしていく。
- ◇ 学年で2手に分かれて訓練を行ったことは、よかった。
- ◇ 今年は、長めの期間をとって、ブラインド方式で実施したので、意識を高め継続することができた。

【課題】

- ◆ 避難経路が徹底していなかった。（落下物に注意する点を意識せずに、より速く避難しようとしていた。）
- ◆ 事前に考えていた通りに動けない児童もいた。今後、間をあけて継続して指導していくことが大切である。
- ◆ 登下校中に、どうやって命を守るのかという指導もしていかなければならない。
- ◆ 教職員のいないところでどれくらい避難できるのかも、今後訓練としてやってみることが必要である。
- * 防災アドバイザーから受けた指導について右のようにまとめ、訓練の反省のまとめとともに全教職員に配付した。終礼で説明することで、防災に対する意識を高めることができた。今後も、折に触れ指導していくことが必要である。
また、今後の避難訓練を計画する際にもご指導いただいたことを生かしていきたいと思う。

《防災アドバイザーから受けた指導内容》

- 1 何かあったとき、どうしたらよいかを常に考えさせる日常的な指導・視点をもつことが必要。→ 先生方の意識改革することが防災教育になる。
- 2 避難訓練は、いろいろな場合を想定して行うことが大切。

1 いろいろな場合

- * 登校途中で・・・危険場所はどこか。
- * 家で・・・避難場所はどこか。非常持ち出し品は用意してあるか。
- * 学校で（授業時間・休み時間・放課後 等）

- ・校長、教頭不在の訓練
- ・シナリオ無しの訓練
- ・どちらかの階段が使えない設定の訓練
- ・負傷者設定の訓練
- ・集合時点で「一人いない」設定 等

2 ポイント

- ・「職員全員います」という報告も必要（教務）
- ・誘導の際は、教職員は列の先頭に立つのではなく、列の真ん中で全体を見ながら誘導する。（臨機応変に）
- ・養護教諭は、必要なもの（救急薬品・子どものデータ等）をリュックに入れて、できるだけ両手をあける。
- ・各学級は、袋の中に「ヘルメット」と「非常持ち出し品」を入れておく。
- ・学校便り等で学校が避難場所であること、地域の防災の意識を高めること等の情報を積極的に発信していく。